

クロアチアにおけるカリキュラムの変遷と歴史教育の諸問題

Transition of Curricula and the Problems of History Education in Croatia

石田 信一
ISHIDA Shinichi

要旨

バルカン（南東欧）諸国では各国の歴史教科書の民族主義的な側面が紛争を助長し和解を妨げる要因の一つとして問題視され、諸外国からも関心を集めてきた。バルカン諸国の中でも歴史教育をめぐる活発な論争が見られるクロアチアの事例を取り上げ、一九九〇年代以降の歴史カリキュラムおよび歴史教科書の変化あるいは継続性、とくにクロアチア・ナショナリズムに基づく愛国的な歴史観との関わりに注目しながら、第二次世界大戦や「祖国戦争」に関する記述に焦点をあてて、その特徴と問題点について考察した。

クロアチアの学校教育において歴史は主要な科目の一つであり、授業時間数もかなり多い。歴史教科書はカリキュラムに準拠した認可制で、複数の出版社から

刊行され、四～五年ごとに改訂されている。一九九〇年代の教科書は民族主義的な傾向が顕著であったが、二〇〇〇年代にカリキュラムによる制約は緩和される一方、クロアチア議会の「祖国戦争に関する宣言」などを通じて公式見解が表明され、教科書に反映せざるをえない状況が生じた。第二次世界大戦にせよ「祖国戦争」にせよ、クロアチアを犠牲者・被害者として描くことが求められ、クロアチア側にも問題があったとするような「相対化」の動き糾弾し、多角的な視点に基づくアプローチを認めない立場もある。その点で、なおクロアチアの歴史教育には紛争を助長し和解を妨げかねない面があり、その本質的な改善が求められていることを指摘した。

はじめに

二〇一九年九月、クロアチアでは「人生のための学校 (Škola za život)」をスローガンとする新しいカリキュラムの下で新学期が始まった¹。すでに二〇一四年に社会民主党主導の中道左派連立政権の下で始まっていた包括的なカリキュラム改革プロセスは、二〇一六年のクロアチア民主同盟主導の中道右派連立政権への交代により大幅な軌道修正を余儀なくされた。教育担当大臣（現在では科学教育大臣）が次々と交代し、この問題をめぐって二度にわたる数万人規模の抗議デモまで組織されるなど、大きな抵抗を受けながらも導入にまで漕ぎ着けたこのカリキュラム改革は、「情報」の必修化といったICT教育の拡充に加え、教科書の低価格化（実際には小学校では無償貸与されるようになった）と軽量化、さらにデジタル化を推進するものであり、一定の評価を受けているように見える。

しかし、当初想定されていた市民（シチズンシップ）教育のように導入を見送られた科目があり、その他の科目に関しても十分に時間をかけて新しいカリキュラムが策定されたものとは言いがたいことから、必ずしも肯定的な意見ばかりが出ているわけではない。それどころか、歴史教育に関して言えば、数年間かけて準備されたカリキュラム案が突如破棄され、新しい専門家委員会の下で大幅に修正されたカリキュラムが採択されるなど、不透明なプロセスに疑義が生じたことに加え、教育法の観点から「一九九〇年代半ばにまで逆行している」²との厳しい批判が

浴びせられている。クロアチアを代表する歴史研究・教育機関の一つであるザグレブ大学は即座にカリキュラム案の撤回を求める声明を発している³。新しいカリキュラムに基づく歴史教科書は、まだ古代史に関するもの（小学校五年生向けおよび中学校一年生向け）しか刊行されていないため、全体としてどのような変化が見られるのか判断できないが、歴史学の学術性と専門性を否定する「教条主義的な歴史」⁴への逆行を危惧する声もすでに上がっている。

バルカン（南東欧）諸国の歴史教科書問題は、とくに一九九〇年代にユーゴスラヴィア紛争が勃発してから、各国の歴史教科書の民族主義的な側面が紛争を助長し和解を妨げる要因の一つとして問題視され、当事者であるバルカン諸国だけでなく諸外国からも関心を集めるようになった。バルカン諸国と同じように近隣諸国間で歴史教科書問題を抱える日本でも早くから問題意識が共有され、二〇〇〇年代初頭から東アジアとの比較を視野に入れたバルカン諸国の事例の共同研究が進められ、今日に至っている。もともと、バルカン諸国の歴史研究者・教育者らがつたび国際会議等を開催し、既存の歴史教科書の問題点について検討し、共通の理解を深めるための共通歴史教材の作成まで行った二〇〇〇年代の状況と比べて、現在のほうが教科書自体の改善がなされているとはいいたい。

本稿ではバルカン諸国の中でも歴史教育をめぐる活発な論争が見られるクロアチアの事例を取り上げ、一九九〇年代以降の歴史カリキュラムおよび歴史教科書の変化あるいは継続性、とくに紛争を助長し和解を妨

げる要因とされたクロアチア・ナシヨナリズムに基づく愛国的な歴史観がどの程度教科書に反映されているのかについて考察していく。義務教育の最終学年にあたる小学校八年生向けの歴史教科書に描かれた第二次世界大戦や「祖国戦争」(近年では「クロアチア独立戦争」とも呼ばれる)といったトピックが、主たる分析の対象となる。また、導入されたばかりの新しい歴史カリキュラムの内容についても、あわせて確認していくこととしたい。

なお、本稿はJSPS科研費(研究課題「バルカン諸国の歴史教育から見た紛争と和解の研究」(15K10046))の助成による研究成果の一部である。

1. クロアチアの学校教育制度と歴史教育

歴史カリキュラムの分析の前提として、まずクロアチアの学校教育制度と歴史教育の特徴について概観しておく。クロアチアにおいて義務教育を行う初等教育機関は八年制の小学校である。これはユーゴスラヴィアの一部であった一九五〇年代末から変わっておらず、一九九〇年代にユーゴスラヴィアが解体してから九年制に移行した他の国々と異なり、現在まで一貫して維持されている。二〇一〇年にナシヨナル・カリキュラム・フレームワークが提示された際には小学校八年間に加えて中学校二年間を義務教育とすることが構想されていたが、実現には至らなかった⁵。なお、旧ユーゴスラヴィア諸国における就学前教育を除く義務教

育期間は、スロヴェニア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロは小学校九年間、コソヴォは小学校・中学校あわせて九年間、北マケドニアは小学校九年間と中学校二〜四年間となっている。セルビアだけが、クロアチアと同じく八年制の小学校を維持し、それを義務教育期間としている(ただし、セルビアは二〇〇〇年代初頭に九年制への移行を試みた時期がある)⁶。なお、その他のバルカン諸国(ルーマニア、ブルガリア、ギリシャ、アルバニア)でも、義務教育期間が小学校・中学校あわせて九年間を下回る国はない(就学前教育を除く)⁷。

なお、現在のクロアチアにおける歴史の年間授業時間数は、小学校五年生から八年生まで各々七〇時間(週二時間)、合計二八〇時間となっている⁸。他の旧ユーゴスラヴィア諸国と比較すると、セルビアは二四八時間、モンテネグロは二〇一時間、ボスニア・ヘルツェゴヴィナは二〇八時間(地域差がある)、スロヴェニアは二三九時間、北マケドニアは二八八時間となっており、クロアチアは北マケドニアと並んで歴史の授業時間数が多いことがわかる⁹。ちなみに、コソヴォだけは五年生から九年生まで歴史を学ぶため、さらに多くの時間を歴史の授業に割いている(三六六時間、前期中等教育の四学年だけでも二九二時間)¹⁰。小学校における標準的な授業科目と時間数は、表1の通りである。

一方、クロアチアにおける義務教育ではない中等教育機関は、四年制のギムナジウム、同じく四年制の芸術学校、そして三〜五年制の専門学校(職業学校)に分かれている。一九七〇年代半ばから一九九〇年代初頭にかけて、職業教育を重視した教育センターに統一された時期を除け

表1：小学校の授業科目と年間授業時間数
(2006年度から2018年度までのカリキュラム)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生
必修科目								
クロアチア語	175	175	175	175	175	175	140	140
美術	35	35	35	35	35	35	35	35
音楽	35	35	35	35	35	35	35	35
外国語 (*1)	70	70	70	70	140	140	140	140
数学	140	140	140	140	140	140	140	140
自然					52.5	70		
生物							70	70
化学							70	70
物理							70	70
自然と社会	70	70	70	105				
歴史					70	70	70	70
地理					52.5	70	70	70
技術文化					35	35	35	35
保健体育	105	105	105	70	70	70	70	70
選択科目								
宗教 (*2)	70	70	70	70	70	70	70	70
外国語 (*1)				70	70	70	70	70
その他 (*3)					70	70	70	70
古典語特別プログラム								
ラテン語					105	105	105	105
ギリシャ語							105	105

出典：Nastavni plan i program za osnovnu školu, Zagreb: Ministarstvo znanosti i obrazovanja i športa, 2006.

*1：外国語には、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語があり、1年生から始まる必修の第一外国語のほか4年生から始まる第二外国語が選択できる。

*2：宗教のうち、当該カリキュラムで明示されているのはカトリックのみ。

*3：その他の選択科目のうち、当該カリキュラムで明示されているのは「情報」のみ。

ば、こうした区分こそが伝統的なものであると言える。二〇〇九年からマトウーラと呼ばれる国家卒業試験が導入されたことを除けば¹¹⁾、この四半世紀にわたり制度的に大きな変更は見られない。現在のギムナジウムには総合ギムナジウム、古典ギムナジウム、言語ギムナジウム、自然科学・数学ギムナジウム、自然科学ギムナジウムがあり、カリキュラムも異なる。歴史はどのタイプのギムナジウムでもすべての学年(四学年)で必修科目とされ、その年間授業時間数は、一〜三年生はどのタイプのギムナジウムでも各々七〇時間が、四年生は総合ギムナジウムは九六時間、その他のギムナジウムは七〇時間となっている¹²⁾。

社会主義期から一九九〇年代半ばに至るまで、クロアチアにおける歴史教科書は基本的にシュコルスカ・クニガ社が刊行するもの一種類しか

表2：クロアチアにおける小学校8年生向け歴史教科書の採択率

著者・タイトル・出版社	採択率	備考
2006年		
S. Koren, <i>Povijest 8, Profil</i>	30.22%	
V. Đurić, <i>Povijest 8, Profil</i>	22.82%	
M. Brkljačić et al., <i>Povijest 8, Školska knjiga</i>	19.55%	
H. Matković, <i>Povijest 8, Školska knjiga</i>	11.76%	無効
M. Kolar-Dimitrijević et al., <i>Povijest 8, Meridijani</i>	9.57%	無効
J. Jurčević et al., <i>Povijest 8, Alfa</i>	6.09%	無効
2010年		
K. Erdelja et al., <i>Tragom prošlosti 8, Školska knjiga</i>	38.56%	
S. Bekavac et al., <i>Povijest 8, Alfa</i>	25.18%	
S. Koren, <i>Povijest 8, Profil</i>	18.53%	
V. Đurić, <i>Povijest 8, Profil</i>	17.73%	
2014年		
V. Đurić <i>Vremeplov 8, Profil</i>	31.16%	
K. Erdelja et al., <i>Tragom prošlosti 8, Školska knjiga</i>	30.40%	
S. Bekavac et al., <i>Povijest 8, Alfa</i>	24.06%	
S. Koren, <i>Povijest 8, Profil</i>	14.39%	

出典：Osnovna škola. Popis odobrenih udžbenika za šk. god. 2006./2007. Podaci o postotnoj zastupljenosti za šk. god. 2006./2007. izračunati na osnovu 98.7% obradenih OŠ (913); Osnovna škola. Postotna zastupljenost za šk. god. 2010./2011.; Korigirana verzija postotne zastupljenosti udžbenika i pripadajućih dopunskih nastavnih sredstva za šk. god. 2014./2015.

なく、事実上の国定教科書となっていたが、一九九六年から多元化がはかられ、二〇〇〇年代に入ると認可制の下で数多くの出版社が教科書を刊行するようになった。その後、採択率による制限（認可済みであって

も採択希望率一〇％未満のものは失効となる）が課されるなど紆余曲折を経て、二〇一九年度の時点で歴史教科書を刊行しているのはシュコルスカ・クニガ社のほか、アルファ社、メリディアニ社、プロフィール・レット社、アルカスクリプト社のみとなっている。教科書はたびたび改訂され、執筆者も頻繁に交代しているが、プロフィール・レット社の歴史教科書には二〇〇〇年前後に初版が出てから現在に至るまで改訂を繰り返しながら継続的に用いられてきたものもある¹⁵⁾。一方では、数年間で教科書目録から削除される教科書も少なくない。とくに二〇〇〇年代には毎年採択率等による見直しが行われていたため、全般的に短命であり、例えばピーロテフニカ社のギムナジウム四年生向け歴史教科書が用いられたのは、わずか二年間であった¹⁶⁾。二〇一〇年代に入って、一度採択された教科書は最低でも四年間は使用し続けるルールが設けられたものの、むしろ四〜五年で大幅な入れ替えが生じる事態となっている。なお、かつては一つの出版社（とくにシュコルスカ・クニガ社とプロフィール社）が同一学年・同一科目に複数の教科書を刊行することも珍しくなかったが、現在ではそうしたケースは無くなりつつある¹⁵⁾。歴史教科書の種類と採択率の変遷については、表2を参照。

2. 一九九〇年代のカリキュラムと歴史教科書をめぐる問題

クロアチアにおける歴史教育の専門家であるザグレブ大学のスニエジャナ・コレンによれば、一九九〇年代前半のクロアチアの歴史教科書はマルクス主義的歴史解釈を排除する「脱イデオロギー化」と「ユーゴスラヴィアという枠組みからのクロアチア史の抽出(脱ユーゴ化)もしくは『再国民化』」に要約される¹⁶。多くの場合、こうした特徴は他の旧ユーゴスラヴィア諸国にもあてはまると考えられる。クロアチアでは、歴史教育の目標はクロアチア人としてのナシヨナル・アイデンティティを強化することとされた¹⁷。そもそも一九九〇年四月に実施された戦後初の複数政党制に基づくクロアチア議会選挙で地滑りの勝利をおさめ、共産主義者同盟にかわる新政権を樹立したのはナシヨナリストであり歴史家でもあったフラニョ・トウジマン率いるクロアチア民主同盟であり、その政策には彼自身の歴史観を反映したのも少なくなかった。一九九〇年一二月に採択されたクロアチア共和国憲法、いわゆるクリスマス憲法の前文にクロアチア公国が樹立された七世紀から前述の議会選挙に至るクロアチア史の概略が描かれていることにも、こうした歴史の政治利用という側面があらわれていると見ることもできる(一九九七年には憲法前文に「祖国戦争」の文言が追加された)¹⁸。

すでに一九九〇年にクライナ地方でセルビア人の反乱が起り、翌九一年からスラヴォニア地方やダルマチア地方でユーゴスラヴィア人民軍を後ろ盾とする彼らとクロアチア軍・警察部隊との激しい戦闘が展開

していく中で、「セルビアの歴史は可能な限り否定的な文脈へと置き換えられ」とともに、「ユーゴスラヴィア国家に関する肯定的な歴史的記憶を消去するために、共有された過去のなかから否定的な事例が偏向して選択され」るようになった¹⁹。例えば、イヴォ・ペリッチによる小学校八年生向け歴史教科書では、「セルビア人・クロアチア人・スロヴェニア人王国」、のちのユーゴスラヴィア王国の建国は「クロアチアが一〇〇〇年以上にわたって維持してきた自ら国家性を失った」出来事として位置づけられ²⁰、第二次世界大戦中に「クロアチア独立国」が樹立された背景として、ユーゴスラヴィアにおいてクロアチア人のナシヨナル・アイデンティティの抹消が試みられたことから、クロアチア人の独立志向が高まっていたとの説明がある²¹。

前述の小学校八年生向け教科書は戦後の社会主義ユーゴスラヴィアに關しても、「セルビア人支配を継承する共産主義型の中央集権国家」であり、クロアチア人が連邦機関への雇用などで差別を受け、その後もクロアチアが経済的に不利益を被る集権主義に加えて、ユーゴスラヴィア統一主義に基づく民族政策(ユニタリズム)に直面するなどして困難な状況が続いたと説明している²²。この経済的・民族的抑圧というイメージは、クロアチアの独立に関する説明でも繰り返されている²³。なお、クロアチアにとつての「祖国戦争」は「セルビア化したユーゴスラヴィア人民軍」などによる大セルビア主義に基づく侵略戦争として位置づけられており、クロアチア人その他の「非セルビア人」に対してなされた彼らの残虐行為がことさら強調されている²⁴。その点では、クロアチア

政府の公式見解を代弁するものとなっていたという指摘もある²⁵。もつとも、同時代のセルビアの歴史教科書もクロアチアおよびクロアチア人に対して否定的・敵対的であることに変わりはなく、二つのユーゴスラヴィアを解体させた元凶として描いていた²⁶。そうした点で、ユーゴスラヴィア時代から続く善悪二元論的な「我々」と「他者」の区別（ただしユーゴスラヴィア時代にはユーゴスラヴィア諸民族が「我々」であり、別の民族かを問わず、ファシストやブルジョワジーが敵対する「他者」であった²⁷）が引き継がれており、「他者」にのみ責任を負わせようとしていることにクロアチアとセルビアの共通性を見出すことができる。

クロアチア独立後、試行錯誤を経て一九九〇年代半ばに導入された歴史カリキュラムは、その成立時から多くの問題を孕むものであった。ユーゴスラヴィアからの独立と国土回復をめざす「祖国戦争」が継続し、クロアチア・ナショナリズムが高揚する特殊な時代状況の中で、必ずしも十分に議論を尽くさず、歴史教育の専門家が十分に関わらずに作成されたものとみなされている。内容的には、旧ユーゴスラヴィア連邦時代のカリキュラムを一定程度継承しつつ、ユーゴスラヴィア形成の歴史やユーゴスラヴィアを構成していた諸民族の歴史といった「ユーゴスラヴィア史」的な部分を削除していることが最大の特徴である。政治史を中心に世界史の内容と自国史の内容を交互に年代順に叙述していく手法には変わりがないが、かつては必然的に「ユーゴスラヴィア史」的な部分を多く含むものであった自国史がもっぱらクロアチア史に置き換わったのである。その結果、歴史教科書においてクロアチア史の占める比率

が圧倒的に高くなった。一九九五年および一九九九年に導入された歴史カリキュラムでは、授業時間の少なくとも六〇％をクロアチア史、残りの四〇％を世界史にあてるべきことが明記されている²⁸。実際、一九九〇年代後半に刊行された歴史教科書がクロアチア史と世界史をどのような比率で描いているかを分析した論考によれば、小学校八年生向け教科書ではクロアチア史が六一％、世界史が三九％であり、ユーゴスラヴィア史あるいはバルカン史のような地域史的視点は皆無であった²⁹。こうした自国史への傾斜は、クロアチア・ナショナリズムの高揚を反映したものであるが、近隣諸国やマイノリティへの配慮が欠如していることに加え、世界史とクロアチア史を結合させるはずの「ユーゴスラヴィア史」的な部分を意図的に削除したために、非常に断片的な内容となったという印象を拭えない。

参考までに、一九九九年の歴史カリキュラムに基づく小学校八年生向けの授業内容（必修）は「二〇世紀のクロアチアと世界」を大テーマとし、①二つの世界大戦の間のクロアチアと世界（一九一八～三九年）、②第二次世界大戦期（一九三九～四五年）、③第二次世界大戦から現在までの時期（一九四五～九五五年）に分けられ、とくに③は「世界とヨーロッパの情勢」、「社会主義ユーゴスラヴィアにおけるクロアチア（一九四五～九〇年）」、「主権へと向かうクロアチア」に区分されている。このうち、最後の「主権へと向かうクロアチア」の授業内容は次の通りである³⁰。ここでは、まだ「祖国戦争」という用語が用いられていないことが注目される³¹。

・自立した³²主権国家クロアチアの誕生（一九九〇年）…選挙がクロアチア民族の要望を示した。新たなクロアチア議会の活動開始。クロアチア共和国新憲法の採択。旧ユーゴスラヴィア地域における新たな共同体の形態に関する交渉の困難さ。クロアチアの自立した主権国家としての宣言。クロアチア共和国憲法から。

・クロアチア―自立し主権を有する国際的に承認された国家…クロアチア国家の自立と主権に関する決議の発効。大セルビア勢力のクロアチアに対する戦争。クロアチアの防衛者。自立した主権国家クロアチアの国際的承認。和平交渉の継続。国連部隊の到着。国際的な部隊の無能力さ。クロアチアの国連加盟。クロアチアの被占領地域の漸進的解放。復興・帰還プロセスの開始。

・一九四五年から現在までの世界およびクロアチアにおける科学・技術・文化・スポーツ…自然科学・技術のさらなる発展。教育とスポーツの発達。スポーツ活動。現代世界におけるクロアチア。

3. 二〇〇〇年代の教育改革と歴史教科書

クロアチアにおいて教科書が大幅に自由化されたのは、トゥジマン大統領が亡くなり、クロアチア民主同盟が大統領選挙にもクロアチア議会選挙にも敗れて初めて下野した二〇〇〇年以降のことであった。とくに小学校八年生向けの歴史教科書に関して言えば、同年だけでもシユコルスカ・クニガ社が二種類、プロフィール社が二種類、あわせて四種類の歴

史教科書が新たに刊行された。もともと、一九九三年に設置された旧ユーゴスラヴィア国際戦犯法廷がクロアチア軍・警察関係者の訴追手続きを進める中で、クロアチア議会がこれに対抗するかのようになり二〇〇〇年一〇月に「祖国戦争に関する宣言」を採択して公式見解を打ち出したことから、現代史に関して自由に論じることは困難となった面もある。この宣言では、「祖国戦争」は大セルビア的侵略から国土を防衛した「公正かつ正当な、防衛と解放のための戦争であって、その基本的価値は「クロアチア共和国の国家主権と国土の一体性の確立と防衛」にあるとされ、国民に祖国戦争の基本的価値と尊厳を守ることが求められた³³。これを受けて、二〇一〇年には憲法前文に「公正かつ正当な、防衛と解放のための祖国戦争におけるクロアチア民族とクロアチア防衛者の勝利」という文言が追加されている³⁴。別途、クロアチア議会は二〇〇六年六月に「祖国戦争」の最終段階にあたる一九九五年八月の「嵐作戦」の目的や意義を明らかにする「嵐作戦に関する宣言」を採択している³⁵。「クロアチア国家（国民）教育基準」(HNSOS)³⁶が導入され、カリキュラムによる拘束が緩められたのと同じ二〇〇六年に新たな「宣言」が採択されたことは皮肉でもある。この時期、歴史教科書における「祖国戦争」に関する記述は年々増加していった³⁷。そこに一面的な見方ともいえる公式見解を反映させなければならないことは、多角的な視点に基づくアプローチの必要性からすれば、問題がないとは言えないであろう。

それでも、「クロアチア国家（国民）教育基準」に基づく二〇〇六年の歴史カリキュラムがそれまでの歴史教科書が抱えていた諸問題を部分

的に改善したことは事実である。例えば、「クロアチア独立国」の加害者としての側面が取り上げられ、セルビア人・ユダヤ人・ロマ等に対する恐怖政治、人種差別法、ヤセノヴァツ強制収容所、終戦直後のドイツ系・イタリア系マイノリティの受難などの項目が明示されていることには、クロアチア・ナショナリズムに基づく愛国的な歴史観から歴史教育・歴史教科書を解放するという点で大きな意義を見出すことができる。例えば、二〇〇七年に刊行された小学校八年生向け歴史教科書に描かれたクロアチア史の比率は、アルファ社のもので四一％程度、シュコルスカ・クニガ社のものに至っては三二％程度まで低下したことも、そのあらわれであった³⁸⁾。また、従来の政治史一辺倒のあり方を見直し、文化史・社会史あるいはマイノリティ・女性・若者への視点を強化したことも高く評価すべきであろう³⁹⁾。

その一方で、各教科書がクロアチア史の視点からのみユーゴスラヴィア史を描き、クロアチア人以外のユーゴスラヴィア諸民族に触れる場面は非常に限定的で、セルビア人に至ってはほぼ「大セルビア主義」との関わりにおいてしか登場しないことも事実である。「祖国戦争」に関する記述が相当な比重を占める中で、そこで敵対者として位置づけられているセルビアおよび「反乱」に加担したとされるクロアチア国内のセルビア人の描き方は総じて否定的・敵対的なままであった。

このカリキュラムによる一九八九年以降の現代史に関する授業内容（大テーマ）は、①ヴェルサイユ体制、②両大戦間期の民主的なプロセス、③両大戦間期の全体主義体制、④第一のユーゴスラヴィアにおけるクロ

アチア、⑤二〇世紀前半の世界およびクロアチアにおける科学と文化、⑥第二次世界大戦、⑦冷戦時代の世界と共産主義体制の崩壊、⑧世界の脱植民地化のプロセス、⑨第二のユーゴスラヴィアにおけるクロアチア、⑩自立したクロアチア国家の成立と発展、⑪三千年紀の人口に立つクロアチアと世界、である。また、このうち「自立したクロアチア国家の成立と発展」のキー概念と学習成果は次の通りである⁴⁰⁾。

・自立したクロアチア国家の成立と発展

【キー概念】セルビア科学芸術アカデミーの『覚書』と大セルビア的政策、複数政党制選挙、自立と主権、「祖国戦争」、国際的承認、平和的再統合。

【学習成果】ヨシブ・ブロズ・ティトー没後の一九八〇年代の政治・経済危機、中央政府の弱体化の原因、ユーゴスラヴィアの再編に関する異なる考え方について説明すること。セルビア社会主義共和国の国内政策の変化について説明すること。大セルビア主義およびクロアチア社会主義共和国におけるセルビア・ナショナリズムの復活、「クロアチアの沈黙」について解説すること。クロアチアにおける複数政党制への移行と戦後初の複数政党制選挙（フラニョ・トゥジマン大統領の役割）について説明すること。選挙前後のクロアチア情勢について解説すること。セルビア人準軍事組織の成立、クロアチア領の占領、ユーゴスラヴィア人民軍のスロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナへの侵略について説明すること。「祖

国戦争」における被害について説明することゝヴコヴァル、ドゥプロヴニク、その他の都市、著名なクロアチア防衛者への言及。クロアチア領における自称「クライナ・セルビア共和国」の成立、クロアチア人と侵略を支持しないクロアチア市民の迫害について説明すること。クロアチア共和国の国際的承認について説明すること。いかにして戦争に至ったか、誰が侵略者で誰が犠牲者かについて明確に定義づけること。クロアチア防衛の困難さを示す事例およびクロアチア移民の役割について明示すること。ボスニア・ヘルツェゴヴィナにおける戦争の推移および近隣諸国の役割について説明すること。歴史地図を用いてクロアチアにおける被占領地域の解放の推移について説明することゝマスレニツァ作戦、クロアチア軍の南地区における作戦行動、軍・警察による稲妻作戦と嵐作戦。ポドゥナヴリエ地方の平和的再統合について解説すること。クロアチアにおける戦争の結果とボスニア・ヘルツェゴヴィナにおける戦争の結果について説明することゝ人的犠牲と物的破壊、戦争犯罪、民族浄化（オヴチャラ、スレブレニツァ）、住民の強制移住。「祖国戦争」における郷土の事例について解説すること。現代クロアチア社会の情勢について説明することゝクロアチアの復興、経済、失業、人口動態の復元の必要性、難民・避難民の帰還など。

なお、二〇〇〇年代の教育改革を通じてクロアチア・ナシヨナリズムに基づく愛国的な歴史観からの脱却に成功したのかといえ、残念なが

らそのようには考えられない。やや特殊な事例だが、教育省の依頼で執筆された『現代史教科書増補 (Dodatak udžbenicima za najnoviju povijest)』が「祖国戦争」に関する記述等をめぐって物議をかもし、最終的に刊行が取り止められたケースがあった⁴⁰。もとより『増補』は一九九八年にクロアチアに平和的に再統合された東スラヴォニア一帯に住むセルビア人マイノリティに対する歴史教育を補完するものとして構想されていたが、各種メディアを通じてセンセーショナルな取り上げ方をされ、しだいに論点がずれていったように見える。深刻なのは、多角的な視点に基づくアプローチ自体が批判の対象となったことである。『増補』が試みたように、「祖国戦争」におけるクロアチア側の犯罪行為に言及することは、「加害者」であるセルビア側の犯罪行為の「相対化」につながるものであり、許容できないとする言説は、一定の説得力をもって今日に至るまで広く受け入れられているように見える。

実際、二〇〇六年のカリキュラムに基づく新たな小学校八年生向け歴史教科書が二〇〇七年に認可を受ける際には『二〇名のアカデミー会員と一〇名の歴史家による公開書簡』⁴²が発表され、クレシミル・エルデリヤらによる教科書(シュコルスカ・クニガ社)とスニエジャナ・コレンによる教科書(プロフィール社)が名指しで厳しく批判された。前者の場合、「祖国戦争」に関してセルビアおよびミロシェヴィチによる組織的なプロバガンダとクロアチアの政治家の声明を並べて「セルビア系住民が住む地域では反クロアチアの志向が支配的となった」⁴³と結論づけたことなどが、また後者の場合、「ザグレブ大司教アロイジエ・ステピナツの

戦争中の姿勢、すなわち彼がウスタシャ政権に強く断固として反対したかどうかは現在でも論争の的となっている⁴⁴と述べて「クロアチアの福者（ステピナツ）の役割を不当に相対化している」ことなどが問題視された（教科書から当該箇所は削除されている）⁴⁵。この『公開書簡』は最後に「歴史教科書は科学的・教育的基準に加えて、民族的・国家的基準を尊重する必要がある」と述べており、クロアチア・ナショナリズムの観点から、多角的な視点に基づくアプローチに否定的であることがわかる。

4. 二〇一九年の新たなカリキュラムと現代史

冒頭で述べたように、二〇一四年に着手されたカリキュラム改革の結果、二〇一九年度から新しいカリキュラムが導入された。歴史カリキュラムに関して言えば、ザグレブ大学のネヴェン・ブダクヤスニェジヤナ・コレンを中心とする専門家グループが二〇一六年にまとめた提案は完全に無視される形となった。この提案では、「時間と空間」、「原因と結果」、「継続性と変化」、「史料と研究」、「解釈と展望」というコンセプトが一貫して適用されている一方、例えば「祖国戦争」は出てくるものの「大セルビア的侵略」という概念は用いられず、「風作戦」のような個々の作戦行動の例示もないなど、民族主義的な立場からは大いに不満が残るものとなっていた⁴⁶。いずれにせよ、まったく別の専門家グループが急遽作成した、当然ながら国民からの意見聴取も不十分な新しい歴史カリ

キュラム案が採用されることとなったのである。

このカリキュラムでは、小学校における歴史教育は週二時間、年間七〇時間と定められたが、この授業時間数は一九九〇年代から基本的に変わっていない。このカリキュラムの特徴は、歴史を五つの分野、すなわち①社会、②経済、③科学・技術、④政治、⑤哲学・宗教・文化に区分し、それぞれを自国史（ナショナル・ヒストリー）、ヨーロッパ史、世界史の文脈で学ばせること、立法、人権、市民民主社会の発展といった内容を含むように設計されていることにある。このカリキュラムによれば、歴史教育の目標は「過去を学ぶことに対する学生の関心を高め、現在を理解し、地域社会、クロアチア、ヨーロッパ、世界の市民として情報に通じ積極的に社会に参画するために必要な知識とスキルを習得させること」である。また、かつてのようにクロアチア人としてのナショナル・アイデンティティが強調されることはなくなり、「自らの民族、国家、社会、文化的・歴史的遺産、そしてまた過去および現在の他の民族、文化、社会について学ぶことにより、学生は自らのアイデンティティや他の人々のアイデンティティを理解できるような知識を獲得し、スキルを身につける」とされる一方、グローバル化の時代に「自らのナショナル・アイデンティティを保持し、自らの文化的・精神的遺産を尊重し保護すること」が求められている。

授業内容は先史時代から現在まで時系列に整理され、ギムナジウム等での歴史教育の基礎を形成するものとされている。五年生は先史時代と古代、六年生は中世と近世、七年生は一八世紀初頭から第一次世界大戦

の終わりまでの時期、八年生は一九一八年以降の時期について学ぶ。こうした学年ごとの時期区分もまた一九九〇年代から変わっていないが、新たな試みとして各学年に一六の必須テーマと二つの選択テーマが課されることとなった⁴⁷⁾。まだ新しいカリキュラムに基づく現代史を対象とする小学校八年生および中学校四年生向けの歴史教科書は採択・刊行されていないため、ここでは小学校八年生の歴史カリキュラムの必修テーマと選択テーマを提示するとどめる。中学校四年生の歴史カリキュラムも内容的にはほとんど同じである。「大セルビア的侵略」という項目が示すように、従来の歴史観が本質的には変わらずに継承されているように見える。この歴史カリキュラムが実際の歴史教科書にどう反映されるか、そこに和解を妨げるような要素はないのか、その検討が今後の課題となろう。

【必修テーマ】

① 社会分野：「戦間期におけるクロアチアと世界の社会的発展…社会主義、民主主義、全体主義体制」、「人種的、宗教的、民族的、政治的、イデオロギー的な迫害と苦しみ、強制収容所、死の収容所。クロアチアの、ヨーロッパ的、世界的文脈におけるホロコーストおよび人道に対する他の犯罪」、「クロアチアと世界における第二次世界大戦の結果。二〇世紀後半の社会的混乱、人権、市民権、労働者の権利のための運動」、「祖国戦争時の住民の苦難と戦争による荒廃」。

② 経済分野：「世界恐慌の経済的影響」、「ブロック分割された世界の経済的な差異と結果」、「第一・第二のユーゴスラヴィア国家におけるクロアチアの経済的發展」。

③ 科学・技術分野：「戦間期の科学・技術」、「第二次世界大戦…戦争に利用された科学・技術」、「二〇世紀後半の科学・技術・メディア」。

④ 政治分野：「ヴェルサイユ体制とヨーロッパおよび世界における新たな情勢。第一のユーゴスラヴィア国家におけるクロアチアとクロアチア人。連邦主義と統一主義の対立。クロアチアに対する政権側の暴力」、「世界、ヨーロッパ、クロアチアにおける第二次世界大戦。傀儡政権…クロアチア独立国の事例。市民に対する恐怖政治（とくにユダヤ人、セルビア人、ロマ）。反ファシズム／バルチザン運動。ユーゴスラヴィア人民解放反ファシスト評議会とクロアチア人民解放反ファシスト評議会」、「世界のブロック分割と冷戦。第二のユーゴスラヴィア国家におけるクロアチア。共産主義政権の樹立、弾圧、ソ連との対立、自主管理、政治的・民族的対立／クロアチアの春」、「ヨーロッパにおける共産主義の崩壊とユーゴスラヴィア社会主義連邦共和国の崩壊。自立したクロアチア共和国の形成／民主的秩序の導入。クロアチア共和国の国際的承認。ヨーロッパ統合とヨーロッパ大西洋統合」、「一九九一～九五年の祖国戦争。大セルビア的侵略。ヴコヴァルの防衛と占領。クロアチア共和国とボスニア・ヘルツェゴヴィナの領域／一体化した戦場。クロアチア軍・警察の解放作戦…マズレニツァ作戦、稲妻作戦、嵐作戦。エルドウト合意とクロアチ

アのポドゥナヴリエ地方の平和的再統合。 Dayton合意」。

⑤ 哲学・宗教・文化分野：「二〇世紀・二一世紀の芸術、宗教、文化、スポーツ」。

【選択テーマ】

① 「二〇世紀における女性の権利のための闘い」、「郷土史：二〇世紀における社会史からの選択事例」。

② 「二〇世紀・二一世紀のクロアチアの経済移民」、「郷土の産業遺産・選択事例」。

③ 「工業の発展の両面：環境と日常生活への影響」、「宇宙探査」。

④ （必修テーマが膨大であるため設定なし）。

⑤ 「映画芸術と映画産業の発展」、「二〇世紀のポピュラー音楽」。

むすびにかえて

本稿で取り上げたように、クロアチアにおける歴史教育は一九九〇年代から民族主義的なものとなり、現在でも本質的にはそうした傾向は変わっていないばかりか、むしろ一九九〇年代に逆行しているとの見方もある。ザグレブ大学のマリオ・ストレハ教授は「現代の歴史学の出発点を考慮せず、深刻な困難、不可解性、曖昧さを抱えた、二〇世紀的、いくつかの要素では一九世紀的なもの」として痛烈に批判している⁴⁸。一九九〇年代末から進められてきたバルカン諸国間での和解をめざす共通歴史教材の作成の試みでも、クロアチアは積極的に関わっているとは

言いがたい⁴⁹。この共通歴史教材が欧州連合の資金援助をうけたことに関して、クロアチア選出の欧州議会議員ルージャ・トマシッチが「クロアチア史と祖国戦争の相対化」⁵⁰と題する質問状を送り、この教材が「祖国戦争」初期のヴコヴァルの戦いを具体的なデータや価値判断を示さずに当事者双方が戦争犯罪を行ったように「相対化」して描いているとして批判したことは記憶に新しい。こうした点からも、なおクロアチアの歴史教育には紛争を助長し和解を妨げかねない面があると考えられる。その本質的な改善が求められよう。二〇一九年に導入された新しいカリキュラムの下での歴史教科書はまだごく一部しか刊行されていないが、第二次世界大戦や「祖国戦争」を含む近現代史に関する記述をめぐっては激しい論争が起こることが見込まれる。しかも、クロアチアではこうした論争が広く大衆の関心を集めてきた。歴史教育とは別に、ごく最近でも歴史に関連する二つの問題がメディアに大々的に取り上げられ、話題となっている。

一つは、故フラニョ・トウジマン大統領の没後二〇周年に際して、彼が設立したクロアチア労働運動史研究所、現在のクロアチア歴史研究所をフラニョ・トウジマン博士クロアチア歴史研究所に改称する提案がなされたことである⁵¹。アカデミー会員でありトウジマン政権を担う政治家でもあったイヴァン・アラリツァやダヴォリン・ルドルフなど一二名の学識者がこの提案に署名している。二〇一六年にザグレブ空港がフラニョ・トウジマン空港に改称されたことに続くこうした動きを「トウジマンの神聖化」⁵²あるいは「歴史の政治利用」⁵³として批判する声もあるが、

どのような結果となるかは不透明である。

もう一つは、祝日・記念日に関する法律の改正に関するもので、二〇二〇年から五月九日を「ヨーロッパの日およびファシズムに対する勝利の日」(記念日)、一月一八日を「祖国戦争の犠牲者の追悼の日およびヴコヴァルとシユカブルニャの犠牲者の追悼の日」(祝日)とすることに加え、しばしば論争が生じてきた「国家の日」、「独立記念日」、「クロアチア議会の日」の配置を、それぞれ六月二五日から五月三〇日、一〇月八日から六月二五日、五月三〇日から一〇月八日に変更するとともに、「独立記念日」を祝日から記念日に格下げすることが決定された。「国家の日」は祝日、「クロアチア議会の日」は記念日⁵⁴。もとより「国家の日」は戦後初の自由選挙に基づいてクロアチア議会が発足した一九九〇年五月三〇日を記念して、その議会において多数派となったクロアチア民主同盟によって一九九一年に制定されたものであり、同党が二〇〇〇年に下野してから、二〇〇一年にクロアチアが独立宣言を行った(一九九一年)六月二五日に移動された経緯がある。その意味では、現在の与党であるクロアチア民主同盟によって祝日・記念日が元に戻るのとは当然であるかも知れない。

これまで歴史教育・歴史教科書に関しても、こうした「歴史の政治利用」と思われる事例が少なくなかった。二〇一九年に導入された新しいカリキュラムも、それと無関係ではない。このカリキュラムに関する議論が始まった二〇一四年には、当時は野党であったクロアチア民主同盟が、第二次世界大戦後のテイトー率いる共産主義政権の犯罪行為が十分

に描かれていないことや「祖国戦争」の原因が大セルビア主義に基づく侵略行為にあったことが明記されていないことをもって歴史教科書の改訂を要求していた⁵⁵。クロアチアにおける歴史教育がナショナリズムと距離を置き、多角的な視点に基づくアプローチを可能にするには、各種メディアや世論の動向を考慮しても、なお時間がかかるものと思われる。

注

1 Kurikularna reforma - Skola za život [https://mzo.gov.hr/vijesti/kurikularna-reforma-skola-za-zivot/2049] 最終閲覧日：二〇一九年二月一日(以下、すべてウェブ情報の最終閲覧日も同じ)。このカリキュラムは二〇一九年度に小学校一年生・五年生・中学校一年生の全科目および小学校七年生の生物・化学・物理、二〇二〇年度に小学校二年生・三年生・六年生・七年生・中学校二年生・三年生の全科目および小学校八年生の生物・化学・物理、二〇二一年度に小学校四年生および小学校七年生の地理、二〇二二年度に小学校八年生の地理に導入される予定。

2 Snježana Koren: PREMA NAJNOVIJEM KURIKULUMU POVIJESTI, UČENICI BI TREBALI UČITI DA SE 'HOLOKAUST U JUGOSLAVIJI' ODVIJAO 'U RATU I PORACU'⁵¹, *Radio Gornji Grad: Regionalni časopis za književnost, kulturu i društvena pitanja u prijelomnu epohu*, Feb. 7. 2019. [https://radiogornjigrad.wordpress.com/2019/02/07/snjezana-koren-prema-najnovijem-kurikulumu-povijesti-ucenici-bi-trebali-uciti-da-se-holokaust-u-jugoslaviji-odvijao-u-ratu-i-poracu/]

3 Očitovanje Odsjeka za povijest Filozofskog fakulteta Sveučilišta u Zagrebu o Prijedlogu predmetnog kurikula povijesti upućenom na javno savjetovanje 7. veljače 2019., *HRVATSKI PORTAL. Elektronički časopis za povijest i*

- svodne znanosti*, Feb. 18, 2019. [http://povjest.net/]
- 4 キリクムン povijesti finalno je pokazao, ovaj pokušaj reforme negacija je znanosti i struke, *TELEGRAM. Portal za društvena i kulturna pitanja. I svijet koji dolazi*, Feb. 24, 2019. [https://www.telegram.hr/price/kirikulum-povijesti-finalno-je-rokazao-ovaj-pokusaj-reforme-negacija-je-znanosti-i-struke/]
 - 5 *Nacionalni okvirni kurikulum za predškolski odgoj i obrazovanje je orke obvezno i srednjoškolsko obrazovanje*, Zagreb: Ministarstvo znanosti, obrazovanja i športa, 2010.
 - 6 Едујдсе (ヨーロッパ教育情報ネットワーク) のサーチ等々参照。[https://sasea.es.europa.eu/national-policies/euupdate/]
 - 7 同。
 - 8 Одлика о доношењу кинкултума за наставни предмет Ровјест за основне школе и гимназије у Републици Хрватској, NN, 27/2019, Мар. 20. 2019.
 - 9 Правилник о плану наставе и учења за пети и шести разред основног образовања и васпитања и програму настава и учења за пети и шести разред основног образовања и васпитања, *Службени гласник Републике Србије – Просветни гласник*, LXVII, 15, 2018; Правилник о програму настава и учења за седми разред основног образовања и васпитања, *Службени гласник Републике Србије – Просветни гласник*, LXVIII, 5, 2019; Правилник о програму настава и учења за осми разред основног образовања и васпитања, *Службени гласник Републике Србије – Просветни гласник*, LXVIII, 11, 2019 (ザルдуブ) ; *Предметни програм. ISTORIJA. VI, VII, VIII i IX razred osnovne škole*, Родолица: Завод за шкоство, 2017 (ザントネуро) ; *Nastavni plan i program. Osnovna škola. Predmet: Historija/Povijest*, Сарајево, Министарство за образовање, науку и младе, 2018 (ホスニブ) ; *Program osnova škola. ZGDODIJA. Učni nastir*, Љубљана: Министарство за шкоство i šport, 2011 (スロチニブ) ; *Nastavni plan za devetnaestoino osnovno obrazovanje 2019/2020*, Скопје: Биро за развој на образованието, 2019 (北ヴェネニブ) 等々参照。
 - 10 Planprogramet, Ministria e Arsimi, e Shkencës dhe e Teknologjisë [https://masht.ks-gov.net/planprogramet-1]
 - 11 *Džanpa matira*, Zagreb: Ministarstvo znanosti, obrazovanja i športa, 2009.
 - 12 Одлика о доношењу кинкултума за наставни предмет Ровјест за основне школе и гимназије у Републици Хрватској, *Народне новине*, 27/2019.
 - 13 Damir Agić, *Povijest 7 : udžbenik povijesti za sedmi razred osnovne škole*, Zagreb: Profil, 1998; Vesna Đurić, *Povijest 8 : udžbenik povijesti za osmi razred osnovne škole*, Zagreb: Profil, 2000; Snježana Korgen, *Povijest 8 : udžbenik povijesti za 8. razred osnovne škole*, Zagreb: Profil, 2000.
 - 14 Давотка Вубаји-Валентић, *Ровјест 4 : udžbenik za četvrti razred gimnazije*, Zagreb: Биотећника - Сентар за дописно образовање, 2007; Ропис одобрених удџбеника за GIMNAZIJE за šk. god. 2007./2008.; GIMNAZIJE, Врисани удџбеници i друга наставана sredstva iz Kataloga за šk. god. 2009./2010.
 - 15 二〇一九／二〇年度の教科書目録には、小学校五年生向け五種類(各社一類)・中学校一年生向け四種類(アルカスクリプト社を除く各社一類)の歴史教科書が掲載されている。Katalog odobrenih udžbenika šk. god. 2019./2020. [https://mzo.gov.hr/]
 - 16 スニエジャナ・コレン「教科書の中の地域史―クロアチアの事例―」柴宜弘編『バルカン史と歴史教育―「地域史」とアイデンティティの再構築』(明石書店、二〇〇八年)・一二六頁。この時期のクロアチアの歴史教育の問題については「石田信一」ユーゴスラヴィア紛争と歴史教育から見た和解の試み『跡見学園女子大学文学部紀要』五三(二〇一八年)・一〇一七頁を参照(本稿と重複する部分があることをお断りしておく)。

- 17 ロン、前掲論文、一二七頁。
- 18 Ustav Republike Hrvatske, *Narodne novine*, 56/1990, Ustavni zakon o izmjenama i dopunama Ustava Republike Hrvatske, *Narodne novine*, 135/1997.
- 19 ロン、前掲論文、一二九頁。
- 20 Ivo Perić, *Povijest za VIII. razred osnovne škole*, Zagreb: Alfa, 1998, p.13.
- 21 *Ibid.*, p.68.
- 22 *Ibid.*, pp.98-99, 102-103.
- 23 *Ibid.*, p.111.
- 24 *Ibid.*, pp.114-116.
- 25 Magdalena Najbar-Agčić, "The Yugoslav History in Croatian Textbooks," Christina Koulouti, ed., *Clia in the Balkans: The Politics of History Education*, Thessaloniki: CDRSEE, 2002, p.248.
- 26 Anamarija Duceac Segesten, *Myth, Identity, and Conflict: A Comparative Analysis of Romanian and Serbian History Textbooks*, Lanham: Lexington Books, 2011, p.230. 参照する教科書は、ニコカ Galveta と др., Историја за 8. разред основне школе, Београд: Завод за уџбенике и наставна средства, 1993.
- 27 Stefano Pettingaro, *Riski rovijski izlozi. Hrvatski udžbenici rovijski 1918.-2004. godine*, Zagreb: Srednja Europa, 2009, p.193.
- 28 Agneza Szabo, "Nastavni plan i program za osnovnu školu, Povijest," *Glasnik Ministarstva prosvjete i športa Republike Hrvatske*, (1995) 1, pp.80-90; Agneza Szabo, "Nastavni plan i program za osnovnu školu, Povijest," *Posvjetni vjesnik, Posebno izdanje*, broj2/1999, Zagreb, 1999, pp.131-143, 217-220.
- 29 Neven Budak, "Post-socialist Historiography in Croatia since 1990," Ulf Brunnbauer, ed., *(Re)Writing History: Historiography in Southeast Europe after Socialism*, Münster: LIT, 2004, p.161.
- 30 Szabo, "Nastavni plan," 1999, p.142.
- 31 同じ歴史カリキュラムの選択（追加）部分には「祖国戦争」が登場する。*Ibid.*, p.220.
- 32 本稿では、原文の *samostalnost* を *nezavisnost* や *neovisnost* と区別して「独立」ではなく「自立」と訳しているが、実際にはほとんど「独立」の意味で用いられている。
- 33 Deklaracija o Domovinskom ratu, *Narodne novine*, 102/2000.
- 34 Promjena Ustava Republike Hrvatske, *Narodne novine*, 76/2010.
- 35 Deklaracija o Oluji, *Narodne novine*, 76/2006.
- 36 *Guide to the Croatian National Educational Standards for Primary Schools*, Zagreb: Ministry of Science, Education and Sports, 2005.
- 37 アルファ社の小学校八年生向け教科書を見ると、「祖国戦争」前後のクロアチア現代史に関する記述は二〇〇四年版 (Josip Jurčević et al.) が二二頁、二〇〇七年版 (Stjepan Bekavac et al.) が二三頁、二〇〇八年版 (Stjepan Bekavac et al.) が三三頁と大幅に増えている。
- 38 Stjepan Bekavac et al., *Povijest 8. udžbenik za 8. razrede osnovne škole*, Zagreb: Alfa, 2007; Kresimir Erdelija et al., *Tragom Prošlosti 8. udžbenik povijesti za 8. razrede osnovne škole*, Zagreb: Školska knjiga, 2007. さらに、アルファ社の教科書は翌二〇〇八年に改訂され、そこではクロアチア史の比率がふたたび五〇%を超えている。Stjepan Bekavac et al., *Povijest 8. udžbenik za 8. razrede osnovne škole*, Zagreb: Alfa, 2008.
- 39 石田信一「クロアチアにおける学習指導要領と現代史教育」『跡見学園女子大学人文学フォーラム』四（二〇〇六年）、五七、五九頁。
- 40 *Nastavni plan i program za osnovnu školu*, Zagreb: Ministarstvo znanosti, obrazovanja i športa, 2006, p.291.

- 41 Maja Dabljević, ed., *Jedna povijest, više historija : dodatak udžbenicima s kronikom obilježavanja*, Zagreb: Documenta - centar za suočavanje s prošošću, 2007. の文献は『現代史教科書増補』をめぐる史料集であり、『増補』全文に加えて、関連文書や新聞記事まで収録されている。
- 42 Otvoreno pismo predsjedniku Vlade, predsjedniku Hrvatskog Sabora, Ministru za znanost, obrazovanje i šport i saborskom Odboru za obrazovanje, znanost i kulturu, Apr. 10. 2007, *Portal Hrvatskoga kulturnog vijeća* [http://www.hkv.hr/kultura/udbenici/664-otvoreno-prismo-20-akademika-i-10-povjesnara.html]
- 43 Krešimir Erdelja et al., *Tragom Prošlosti* 8, p.233.
- 44 Snježana Koren, *Povijest 8: udžbenik za osmi razred osnovne škole*, Zagreb: Profil, 2004, p.141.
- 45 二〇一四年の改訂版 (Koren, *Povijest* 8, 2014, p.255) では「スラブ人との争いは長らく歴史学において論じられ、戦争中のクロアチア独立国との関わりや戦後の共産主義政権による告発の正当性が問われてきた」という文言が追加されている。最近でも、この教科書のキリル文字・セルビア語版 (Снежана Корећ, *Историја 8: уџбеник за осми разред основне школе*, Загреб: Профил, 2007) の「祖國戦争」に関する記述をめぐってクロアチア批判の歴史学界の論争の的となっている。Sporni navodi o Oluji u udžbeniku povijesti za nacionalne manjine: Predsjednik Udruge specijalne policije DR odgovorio autorici, *Narod.hr*, Sept. 6. 2019. [https://narod.hr/hrvatska/sporti-navodi-o-olujji-u-udzbenuku-povijesti-za-nacionalne-manjine-predsjednik-udruge-specijalne-policije-dr-odgovorio-autorici]
- 46 *Nacionalni kurikulum nastavnoga predmeta. Povijest. Priručnik*, Zagreb: (Ministarstvo znanosti, obrazovanja i športa), 2016. 歴史カリキュラムの改訂版論争について、下記の記事等を参照。Prof. Vjera Brković, članica SKS, odgovara na napade Budaka i povjesničara s Filozofskog na kurikulum povijesti, *Narod.hr*, Feb. 20. 2019. [https://narod.hr/hrvatska/prof-vjera-brkovic-clanica-sks-odgovara-na-napade-budaka-i-povjesnicara-s-filozofskog-na-kurikulum-povijesti]
- 47 Odluka o donošenju kurikuluma za nastavni predmet Povijest za osnovne škole i gimnazije u Republici Hrvatskoj, *Narodne novine*, 27/2019.
- 48 OKRUGLI STOL, Dramatični apel znanstvenika o sportskom kurikulumu: Nastavu povijesti opet vraćamo u 19. stoljeće, *novlist.hr*, Feb. 22. 2019. [http://novlist.hr/Vijesti/Hrvatska/Dramaticni-apel-znanstvenika-o-sportskom-kurikulumu-Nastavu-povijesti-opet-vracamo-u-19-stoljece?]
- 49 石田信一「ユーロスペース論争と歴史教育から見た和解の試み」等を参照。
- 50 Ruža Tomašić, “Relativisation of Croatian history and the Croatian War of Independence (Parliamentary questions, 29 November 2016).” *European Parliament* [http://www.europarl.europa.eu]
- 51 Priručnik: Hrvatski institut za povijest treba nositi ime Franje Tuđmana, *Hina*, Nov. 20. 2019. [https://www.hina.hr/vijest/10219964]
- 52 Zašto je ideja par akademika da se Institut za povijest zove po Tuđmanu istovremeno užasavajuća i posve logična, *TELEGRAM*, Nov. 21. 2019. [https://www.telegram.hr/price/zasto-je-ideja-par-akademika-da-se-institut-za-povijest-zove-po-tudmanu-istovremeno-uzasavajuca-i-posve-logicna]
- 53 O PRIJEDLOGU DA HRVATSKI INSTITUT ZA POUJEST TREBA NOSITI IME FRANJE TUĐMANA, *Historiografija.hr*, Nov. 23. 2019. [http://www.historiografija.hr/?p=17589]
- 54 Dan državnosti ponovno će se slaviti 30. svibnja, a uvodi se novi blagdan i neradni dan 18. studenog, *Večernji list*, Nov. 14. 2019. [https://www.vecernji.hr/vijest/dan-drzavnosti-ponovno-ce-se-slaviti-30-svibnja-a-uvodi-se-novi-blagdan-i-neradni-dan-18-studenog-1359458]

5 Tomislav Donić: HDZ će mijenjati povijesne udžbenke -Tito je out, a Domovinski rat je in, *HRSvijet.net*, Sept. 7. 2014. [http://www.hrsvijet.net/index.php/137-ahivastari-hrsvijet-net-1/33599-tomislav-onli-hdz-e-mijenjati-povijesne-udbenke-tito-je-out-a-domovinski-rat-je-in]